

ヒロシマ ユネスコ

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。(ユネスコ憲章・前文から)

第四回広島ユネスコ活動奨励賞

受賞団体決まる

国際平和文化都市・広島市の国際活動を支える地域、学校の優れた活動(国際理解、国際協力、国際交流)を顕彰する広島ユネスコ活動奨励賞(広島市教育委員会後援)は、第四回の審査(委員長)／広島大学院国際協力研究科長 中山修一教授を、国際活動を支える地域、学校の終え、学校部門三校(応募三校)社会部門四団体(応募十一団体)が賞に選ばれました。

ユネスコ新春フェスタ2002

日時／2002年1月19日(土) 14時
会場／広島アンデルセン

〈第一部〉広島ユネスコ活動奨励賞表彰式

〈第二部〉ソプラノ・テノール競演

出演 山岸 靖
(エリザベト音楽大教授)

〈記念パーティー〉

同日16時、同会場
会費六千円

主催・広島ユネスコ協会
後援・広島市教育委員会



山岸 靖さん



山岸芽美子さん

上野学園大学声楽科卒業。藤原歌劇団オペラワークショップ。多数のオペラ、コンサートに出演。現在は、日本オペラ振興会、HIOS実行委員

東京音楽大学声楽科卒業。同大学院オペラ修士課程修了。NHK・第9回コンクール第3位。交響曲「イタリア」のソリストとして、現在、エリザベト音楽大教授、副校長、HIOS代表

世界遺産 写真展開催

原爆ドーム・厳島神社 登録五周年記念

原爆ドームと厳島神社が1996年(十二月七日)、世界遺産に登録されて五周年を迎えるのを記念して写真パネル展を十二月四日から九日までの六日間、アステールプラザ市民ギャラリー(広島市中区加古町)で開催しました。(広島ユネスコ協会・宮島ユネスコ協会主催、広島市教育委員会・宮島町・宮島町教育委員会後援)

原爆ドームは、広島県の二つの世界遺産をはじめ国内十一の世界遺産を網羅した日本編二十点、アフリカ西海岸・セネガルのゴレ島(原爆ドーム、アウシユヴィッツ強制収容所と並ぶ人類の負の遺産で、奴隷貿易の拠点)、ヴェネツィアなど文化遺産・自然遺産を含む世界編二十点。

これに世界遺産年報、当協会発行「原爆ドーム絵はがき」鎌倉ユネスコ協会発行「日本の世界遺産」(平山郁夫画)絵はがき、厳島神社のパンフレットなどが展示され、世界遺産の意義をアピールして多くの市民の関心を集めました。

会期中の入場者は約六百人で、報道機関の関心は高く、NHK広島が会期初日の正午ニュースで、広島ホームテレビが二日目の昼のニュースで放送、新聞では中国、朝日、毎日の紙面で報じられました。なお、同展開催中、協会役員は連日、二交替・複数で入場者を迎え入れ、質問などに対応しました。

写真展は、引き続き広島・宮島両ユネスコ協会の主催で十二月十二日から十六日まで宮島町中央公民館で行われ、同時に催された記念講演(広島大学 栃木省二名誉教授・砂防工学)では町内外の多くの人々が紅葉谷砂防ダムが文化財保護に果たす役割について深い関心を示していました。

「おもてなし」に感動

友好親善・大邱訪問の旅

「来年、広島はどうやってお迎えしたらよいだろうか」――昨年締結された広島・大邱ユネスコ姉妹協会提携に基づく第一回目の広島からの訪問団（团长・北川建次会長、十九名）は、九月二十日～二十三日の四日間、韓国・大邱を訪問し、大邱協会の心からのおもてなしのもと、世界遺産見学などを通じて韓国文化と歴史を学び、友好を深めて帰国しました。その帰国

後の団員一同の声が、冒頭のとばです（大邱協会の来日は来年初旬の予定です）

訪問初日、空路やむなく夜遅い時刻（午後八時半）からの歓迎宴会。全達出会長・北川建次会長の挨拶、記念品交換（広島からは広島特産の銅虫盆）そして大邱市長メッセージ披露などから始まった韓国での時間は、眼と耳を充足させ、心と胃袋を満たす四日間となりました。

大邱訪問団日程

＜一日目＞

広島空港発／大邱空港着

歓迎晩餐会

＜二日目＞

世界遺産・仏国寺／慶州市

天馬塚／新羅時代古墳

大邱国立博物館

大邱市内／葉令市、餅屋

夕食会／プルコギ料理

日韓カラオケ歌合戦

＜三日目＞

海印寺／世界遺産

＜四日目＞

大邱空港発／広島空港着

訪問団メンバー

足立柳子、井上昭、井上緑、大本文子、金川みずえ、北川建次、亀井章、木村進匡、高橋博暢、高橋博子、平岡豊恵、藤井正一、藤井孝行、松尾昭彦、松原博子、光田鈿、山本隆信、大和喜久男、大和美須恵

以下、訪問団の報告集からの抜粋です（紙面の都合により人数、原稿を割愛させていただきました。ご了承ください）

北川建次

大邱協会の全達出会長をはじめ皆様の、熱烈にして友情の深いおもてなしをいただき、感謝いたしております。空港でのお出迎え、ホテルでの夕食会、八公山カントリークラブ・レストランでの夕食会などの数々に恐縮したことでした。

そもそも、靖国神社参拝や歴史教科書問題など、両国間には難しい問題があった時期であったにもかかわらず、深い配慮と

お心配りに全く頭の下がる思いをいたしました。様々なお気遣いと慮（おもんばか）りで遇され、さすがの礼の国、儒教の国と感じ入った次第です。

仏国寺、海印寺の優れた世界遺産なども見学することができ、韓国の歴史の古さ、文化の高さに感じ入ったことでした。

これらの文化遺産を度々の戦乱の中で守ってこられたことも驚嘆しました。文化遺産を守っていくことは、大変な努力と、人々の文化に対する認識の深さがなくてはできないことです。

この二つの寺院では国内の多くの観光客と接しましたが、特に印象に残っているのは中学生・高校生の清新な姿でした。

また、年長者に対する敬愛の念も頷けてはいません。一国の現状と未来を見んとする者はその国の青年と老人の姿を見よ、と申します。そうした点で韓国は健全であり、経済上の困難があっても、きつと克服していくものと思えました。

来年は大邱の皆様が広島を訪問される年です。広島側も可能な限りのおもてなしでお迎えして、友好をさらに深めていくことができればと思っております。

ユネスコ協会に入会して一年余りですが、この度、大邱親善友好訪問団の一員として参加させていただきました。

韓半島の東南部にある、輝かしい伽耶と新羅文化の脈を受け継いで歴史の主役として成長してきた大邱市。漢方薬の展示場と市場、餅屋の作業場、礼と義の国・韓国に帰化した日本人将軍・金善忠の鹿洞書院等の見学は、「百聞は一見に如かず」でいろいろ勉強になりました。

また、ユネスコ会員の李氏、徐氏、劉氏、その他の方々からゾンビ（儒学者）精神、食文化、歴史、生活、教育および兵役制度、ハンゲル等を教わり、韓国についてさらに知識を身につけることができました。

大邱は美人の多い地です。数々のミス・コリアの出身地であり、現在NHK韓国語講座のレポーター・金相美さん、街で出会った女性は皆、知的で美人だと思えます。

「二十一世紀は平和、協力への強い念願をもった文化の世紀」と挨拶された大邱市長さんの言葉。微力ながら私たちも、両都市市民たちが、より相互理解し、友好を促進できるよう努力したいと思えます。今回、新しい友人ができたので、次回は

高橋博暢

（次ページへ）



広島―釜山航路で再訪問し、さらに友好を深めたいと思いません。

足立柳子

大邱訪問三日目、友鹿洞。今を遡る四百年前、壬申倭乱で行し、朝鮮に投降したという沙也可の子孫が住んでいる村です。沙也可(金善忠)の純粋な人柄と韓国への憧れ。人としての生き方、拠りどころとする大切なものを守る姿が伝わってきます。

あの秀吉の時代にこんな考えを持ち、それを貫くべく反旗を掲げ、朝鮮に帰化したという勇気と実行力に敬服しました。日本の教科書(平成十一年度用)高校日本史Aに初めて沙也可が「朝鮮に投降した日本武将」として載せられたことも知りました。

井上 昭

到着早々の空港とホテルでは横断幕で迎えていただき感謝し、歓迎晩餐会では全達出会長が心からなる歓迎のご挨拶を述べられました。北川会長は教科書、靖国問題に触れながら歴史認識を互いに持ち、その理解の上に友好を深めたいと挨拶。記念品交換で日本の歴史本を贈ら

れたことは良かったと思います。二十六の王家の墓・天馬塚の後、五千年史特別展開催中の大邱博物館では館長の懇切丁寧な説明を受け、侵略に耐え、文化を護り続けた偉大さに感服いたしました。

葉令市では漢方薬の香りが漂い、元気を戴く。動植物・石全てが素材となり、東洋医院は医院二軒に一軒とのこと。路地に並ぶ餅屋の飾り餅の見事さに見張りまりました。

最後の晩餐会は全達出会長の八公山カントリークラブで最高の松茸料理を食べ、夜遅くホテルのプールサイドのカラオケ会場へ。交流の歌声に肩を組んでテーブルライトを振る。李教授の「ダニーボーイ」で抱き合っ

てのお別れとなりました。日本と何ら変わらぬ田園風景。秋晴れ。心温まるおもてなし。多くの出会い。親切。心に残る至福の旅でした。

木村進匡

大邱では文化の違いを感じる事が多くありました。文化を世界遺産として保護することが、世界平和を希求するユネスコの運動の一端であることを感じました。

世界遺産に指定されている高麗大藏経の莫大な経板が海印寺に収蔵されているのを見て感動

しました。高麗時代の十一世紀に作られた経板は、蒙古軍の兵禍のため全て焼却されたものが、また十六年かかって再製され、今も守られているのです。それは世界の平和を伝教なりに成文化したものです。異教徒を排除する思想が現在も生きて世界の平和を乱しています。それがニューヨークのテロとなり、世界が戦争の恐怖におののいています。他の文化を尊重するものが、世界平和の原点だと感じました。

松尾昭彦

珍しい韓国清酒、韓国松茸、味噌、西瓜、肉、魚等、多種多様な料理を味わせていただきました。盛り皿から直箸で口に運ぶ食べ方は、親しい者同士のマナーと受け止めた。

海印寺には千年も前に木版印刷された八万大藏経という膨大な数量の経文と版板が風通しを工夫した建物の中に整然と保存し続けられていて目を見張りました。八万大藏経は漢字で記されており、親しみを感じましたし、意味を推察出来るものもあつた。

漢字言語を通して日本との交流の歴史があつたことを実感しました。親しく応対してくださる大邱協会の方に尋ねた。「貴男はどうして日本語が上手なのか」「この国の中で、小学校

五年生まで日本語教科書で日本語で教育を受けたのです」。

別の方の説明では、戦争が終わるや否や日本に反発し、独立を鮮明にする意味から日本語を排除しただけでなく、歴史上用いられてきた漢字を排除してハングル言語に統一して今日に至るといふ。最近では、歴史を知る必要から漢字を用いても良い、に変化しているようだ。大邱協会の半数以上の方が日本語を話されたのが大きな救いであつた。

今回の訪問で両協会の親交は深まった。来年はこちらがお迎えし、さらに仲良くなれることだろう。

大和喜久男

大邱協会の方の心からの歓迎ぶりには大変恐縮しました。

「韓国・大邱講座」で来日された徐千済さんは、滞在中四日間つきつきり、最終日には奥さんとご一緒に空港まで見送りに来られました。毎回、数名の方が付き添われ、食事も共にされていろいろと面倒を見ていただきました。

交流には、挨拶ができれば良いと聞いたことがあります。私にとって言葉の壁は厚い。読む・話すができないから不安がつきまといまふ。その点、大邱の役員の方はほとんど日本語を話され、大邱博物館の館長は、

五千年の歴史を日本語で解説されたのには感心しました。韓国も数百年前までは漢字の国であつたとのことで、陳列品の中には掛け軸など漢字の表記が多く、寺院の額はすべて漢字です。大邱は学び、感じ取ることの多い交流訪問でした。

平岡豊恵

三泊四日の旅は驚きと感動の連続でした。

仏国寺で出会った韓国の高校生のもるいこと、素直なこと、意欲的なこと。教えられ、感心させられました。立ち去る時でも「サヨナラ」と口々に笑顔で挨拶をして行くのです。日本の高校生にはとても見られない姿でした。

大邱博物館で五千年史特別展を鑑賞しました。館長自ら丁寧に説明してくださり、時間を忘れて別世界をさまよっていました。文化を大切に護り続けられ、膨大な資料と内容の豊富さに感心させられることばかりでした。

その後、生活の一部、葉令市を訪れました。三百年余り続く葉令市の凄さを感じると同時に、自然と人間の共生の大切さを強く思われました。

友好親善の旅、特色ある旅で視野を拡げていただき、数々を学び、友だちが増したこと等々、素晴らしい充実した旅でした。

藤井正一

人物交流の楽しさと大切さを
実感しました。普段着で等身大
の交流を、特に若い世代の交流
を推進しましょう。私の研究で
行っている広島・大邱両市民の

社会などを相互理解するプログ
ラムを持って交流し、東アジア
の一員として地域の発展にも貢
献できる人々になってほしいと
念じております。

松原博子

意識調査では、日本人は焼肉、
キムチ、チマチヨゴリなどに視
線が向き、韓国人の顔や心に向
いていない傾向があります。一
方、韓国人は日本の歴史、政治
的問題に少しこだわりを過ぎて
いて、現在の日本と日本人を一
層理解する努力が必要であると
思います。これから国を背負う
若者が双方の国の歴史、文化、

ユネスコ世界遺産に登録され
た海印寺大藏経板・藏経板殿、お
よび大邱博物館の五千年史特別
展を館長様の説明を拝聴しなが
ら鑑賞できましたことは、先人
の知恵と日本文化のルーツを知
り得る貴重な経験となりました。
韓国初期の建築物（八〇二年
創建）に、中国から朝鮮半島を
経て日本に伝来したという痕跡

を私は実感いたしました。大半
の古建築は建造された時、海印
寺大寂光殿と同じように壮大か
つ優美な色彩で覆われていまし
た。創建当時の姿に復元された
大寂光殿の斗拱組、地垂木、飛
簷垂木、扇垂木に感動して思わ
ずカメラのシャッターを切りま
した。藏経閣にもその名残りを
思わせる彩色の一部があり、建
物の前で建造時を想像しました。
宮島ユネスコ協会の方から、
「世界遺産を守り続けるには地
元の多くの努力が必要」と伺っ
たことがあります。世界遺産を
有している地では永久に多くの
費用と技術を必要とします。今

後、ユネスコ活動の課題かと思
います。
この度、韓国の高校生に日本
語で話しかけられました。カル
チャー・ショックとでも言いま
しょうか。私を含め何人の人が
ハングル語で「こんにちは」と
声を掛けることができるでしょ
うか。大邱協会の皆様は、日本
語もしくは英語で会話をしく
ださり、感謝いたしています。
そして同時に来年の大邱協会の
方の訪問時までに長めの自己紹
介をハングル語で言えるように
しなければと痛感しています。

過去の歴史的記憶を微塵も感
じさせない誠心誠意、親切丁寧
におおらかな態度で、行き届い
た心配りを頂き、全日程を楽し
く終えることができました。
歓迎夕食会で全達出会長が挨拶
の中で「人間はみんな同じ、
住む所が違うだけです。ユネス
コ理念に基づいて交流を通して
連携と協力を深め、相互理解と
友好を促進し、世界平和の中心
として平和の文化づくり実現に
努めていきたいものです」と述
べられました。これは両協会の
姉妹提携の精神であり、今回の
訪問がその実現に向けて確かな
一歩を踏み出したと言えます。

韓国・大邱講座開く

「もっと知りたい韓国・大邱
講座」（主催／当協会、後援／
広島平和文化センター、広島県
日韓親善協会）が、九月一日、
広島国際会議場で開かれ、五十
六名が参加、韓国・大邱の理解
を深めました。

大邱市紹介ビデオ（大邱市制
作）の上映に続いて次の講義が
展開されました。
「大邱広域市の歴史的背景・
文化・教育・経済」／広島大
学・李東碩助教授、「日韓交流

体験・新聞人の眼から」／大邱
協会・徐千済常任理事、「在韓
原爆被爆者」／在韓被爆者を支
援する市民の会・宮川裕行講
師、「日韓市民交流推進アンケ
ー卜報告」／当協会・藤井正一常
任理事。

講座のため大邱からお迎えし
た徐千済講師をはじめ各講師は
研究と体験に基づく熱のこもつ
た講義を展開、在広留学生（韓
国、中国）大学生、交流団体、
市民、当協会会員などの参加者



はメモをとりながら熱心に受講
していました。
なお、当協会の韓国・大邱親
善訪問団は事前学習として受講
し、閉講後、講師を囲んで結団
式を行いました。

山本隆信

「平和の鐘」鳴り響く

広島ユネスコ協会は、昨年に
ひきつづいて、終戦記念日の八
月十五日正午に、「8・15平和
の鐘」事業を行いました。

これは、昨年、国連の「平和の
文化国際年事業の一環として、日
本ユネスコ協会連盟が提唱し、全
国の協会が呼応して実施した事
業の第二回目のもので、当協
会は、昨年行った平和公園内の
平和の鐘に加えて、新たに、国
宝のある不動院の鐘楼を会場
に、計二か所で行いました。
平和公園の鐘は、世界平和と
核兵器廃絶を願って建立され、

また、不動院の鐘は、朝鮮半島・
高麗初期の名鐘、とそれぞれ由
緒ある鐘であるだけに、約二十
名の会員が、平和を祈念して力
強く打ち鳴らしました。ことは
は、この事業への思いを内容と
して、韓国・大邱のユネスコ協
会とメッセージを交換いたしま
したが、大邱協会からのメッ
セージは、打鐘前に、参加者に
披露され、改めて、両協会手を
携えて世界平和実現に努力する
必要があることを確認しあいま
した。
この模様は、放送四社、新聞
三社から取材を受け、大きく報
道されました。

ユネスコ現地講座開催

11月10日 厳島・自然編

前夜の雨もあがって秋晴れの朝、宮島へ渡る連絡船も、おだやかな海を滑るように進む。

九時三十分、宮島棧橋二階のデッキフロアで出発式。地元宮島ユネスコ協会会員も加わって参加者は二十五名。講師の広大



教授 西村清巳先生の紹介をすませて、宮島自然探索ウォークのスタート。

商店街や厳島神社を横目に見ながら紅葉谷公園へ。紅葉の見えるには少し早いとはいえ、鮮やかな紅い色の木々の下では歓声が上がります。紅葉谷の奥に作られた庭園砂防ダムのそばでは、

宮島協会 梅林副会長の説明を聞く。昭和二十年、枕崎台風の土石流で壊滅した紅葉谷は、このダムによって蘇ったとのこと。

ロープウェイのりばの横から山道に分け入る。いよいよ包が浦への登山ルートがはじまる。

良く整備された道をゆつくりと登る。西村先生は立ち止まっては樹木や木の実、小さな草花の

話をされる。

峠にさしかかると左右の眺望が開けて、眼下に朱の大鳥居、大野瀬戸から廿日市の町並みが見渡せる。フェリーの航跡やカキ筏が変化に富んだ模様を海面に描く。その向こうは広島、似島、能美島。汗を拭きつつ、しばしパノラマを楽しむ。

尾根道を歩いてしばらくゆくと、あとは下り坂。足の運びに気をつけながら原生林を縫ってゆつくりとくだる。やがて、目の前が明るく開けて包が浦キャンプ場に到着。宮棧橋を出てちよど二時間半。

管理センター研修室で、和やかに昼食。ひさしぶりの山道ハイキングを終えたあとの食事はまた格別。

昼食のあと、西村先生の講話を聴く。万葉集に詠まれた植物の話、万葉人の鋭い感性、そして、詩人金子みすずの自然を觀

る優しい目など、人間と自然との関わりについて語り、自然を大事にする心をもつこと、環境教育の大切さを強調された。

包が浦から海風に吹かれながら海岸沿いに歩いて杉の浦にある「世界遺産貢献の森」に立ち寄り厳島神社修復用の檜皮(ひわだ)を見る。

全員無事、宮島棧橋に帰り着き解散。土産のみみじ饅頭を手土産に帰途についた。

(常任理事 井尾義信)

「国際交流協力の日」今年も参加

広島市の民間国際交流団体が一堂に会する「国際交流・協力の日」(広島平和文化センターなど主催)が、二回目を迎えて三月三日、広島国際会議場を主会場に開かれます。今年も当協会は実行委員会に

参画するとともに紹介展示コーナーに出展し、世界遺産と世界寺子屋運動のパネルでアピールします。

また、日本ユネスコ協会連盟が制作した世界遺産写真パネル(今月、アステールプラザ市民ギャラリーで展示したもの)を特設コーナーで展示することにしています。

中国ブロック活動研究会参加者募集

本年度のユネスコ・ブロック研究会は、「識字運動」世界寺小屋運動の展開」をテーマに、二月二日(土)・三日(日)の二日間、倉敷市民会館で開催されます。これからのユネスコ活動の指針を研究する有意義な会です。多くの方の参加をお願いします。参加希望の方は今月末までに事務局へお申し込みください。

高橋副会長から浄財

高橋昭博副会長から「被爆を乗り越えて生命を承らえ、古希を迎えることが出来たことへの感謝の気持ちを表したい」として当協会へ二十万円が寄せられました。「原爆ドーム・世界遺産基金」に組み込み、有意義に運用させていただきます。

(アフガン支援募金にご協力を!!)

現在、日本ユネスコ協会連盟の呼びかけに応じて国内各地のユネスコ協会が募金活動を展開しています。

当協会は、先の理事会で、本来のユネスコ活動の眼目である教育支援を行うべきであるが、当面は難民支援のため、連盟が決定したペシヤワール会・医療サービスを支援先として募金活動にとりくむことと「原爆ドーム・世界遺産基金」からの寄金を決め、既に役員段階の募金と先日開催された世界遺産登録五周年記念写真展会場での募金活動を始めました。会員の皆様のご協力をお願いします。(事務局へ現金書留で送付願います)。

なお、教育支援の動きとしては日本NGO(非政府組織)が主導するアフガニスタン復興会議が今月中旬、東京で開かれ来年1月下旬、ユネスコが教育制度の再建をめざす国際会議をパリで開催することが松浦晃一郎ユネスコ事務局長から発表されています。日ユ協連は、理事長が年明けにパキスタンを訪問し、ユネスコ事務所、ユニセフ、JICAなどと意見交換をすることになっています。

日ユ協連は「年内一千万円募金」を掲げていますが、来年も引き続き活動を展開するとしています。

重ねて会員のご支援をお願いいたします。

へあせるへ二〇〇二に参加

市民ボランティアによる実行委員会が主体となつて行うべあせるべ(英語の「PEACE & LOVE」をスペイン語風に発音した造語)が、去る十月七日(日)午前十時から中央公園芝生広場で開催、また、同会場のグランドでは二〇〇一ねんりんピック広島島の催しもあり、大勢の人で賑わいました。

会場には三十三か国、二万人が参加し、ステージを取り囲み国際色豊かに各国の支援団体のブースが立ち並びました。

ステージでは、各国の民族衣裳をまとつての踊りやコーラス、太極拳などが行われ、各コーナーにおいては、お国自慢の料理や民芸品などが展示即売されました。

また、今回、アメリカで起きたテロ事件による犠牲者に対し一分間の黙祷を行い、本部に被害支援の募金箱も設けられました。

広島ユネスコ協会では例年どおり「子どもの伝承遊びコーナー」を設けて、わらざうりや紙・ダンボール・木の葉・風船等を使った創作や風づくりに挑戦しました。その他にも、古代火おこしや竹を使った竹トンボづくり、

シャボン玉など親子で楽しいひとときを過ごしていました。

また、ユネスコ世界遺産や寺子屋運動などのユネスコ活動を紹介したパネル写真の展示も行い、通りかかった人が写真に目を止めていました。

二十一世紀を迎え、今後、このイベントが交流から協力へとさらに充実・発展していくことを期待するものです。

(理事 國田 繁)



ひろしまを英語で話そう

青年向けに二月から

青年たちがユネスコ活動を理解し、気軽に参加していただくために、このたび、組織部として青年を対象に英会話教室「ひろしまを英語で話そう」を来年二月から開催いたします。簡単な日常英会話を身につ

け、在広、来訪外国人をおもてなしし、また、諸外国との交流を通して国際感覚を養っていくことをねらいとしています。

現在青少年施設等を利用している青年たちに、積極的に参加を呼び掛け、理解を求めるとともに、青年の声が反映できるようにしたいものです。

日時 二月二十日から毎週水曜午後六時(全五回)

場所 広島市青少年センター
講師 広島通訳ガイド協会 梶田 祐子氏

ご案内

光田鈔副会長(勲三等瑞宝章叙勲)・木村進匡副会長(文化科学大臣賞表彰・学校保健活動)を囲んでお祝いのパーティーを開きます。ご参加ください。

- ・日時 一月十日(木) 18時
- ・会場 広島アンデルセン
- ・会費 五千元

後援・協賛行事

- ◇クーパーリック・トリオ(チェコ)演奏会(九月二十八日、同実行委員会主催)
- ◇国際交流フェスENERGY E MOTION 2001(十月六日、広島市青少年セン

ター主催

- ◇大邱・光州・広島女性作家交流展(十一月十三日～十八日、新美会主催)
- ◇原爆ドーム世界遺産登録五周年記念「原爆ドームからのメッセージ」(十二月七日、同実行委員会、ほか)

日誌

- ◇7月◇
21日/第百一回ユネスコ・サロ
ン「広島音楽イベント事情」
大野雅史・音楽プロデュー
サー
- ◇8月◇
15日/全国一斉「ユネスコ・平
和の鐘」(平和公園、不動院)
- 27日/理事会
- ◇9月◇
1日/「もつと知りたい韓国・
大邱講座」
- 13日/組織部会
- 20～23日/広島・大邱ユネスコ
交流「韓国・大邱訪問」
- ◇10月◇
4日/組織部会
- 12日/韓国・大邱訪問団反省会
- 15日/理事会
- 24日/文化部会
- ◇11月◇
10日/厳島神社現地講座・自然

編

- 14日/日ユ協世界遺産撮影班来
広
- 20日/ユネスコ活動奨励賞締切
- 25日/世界遺産研修(アジア)
- 24日/第百二回ユネスコ・サロ
ン「広島を面白くするために」
竹元清実・元マツダ社員
- ◇12月◇
4～9日/原爆ドーム・厳島神
社世界遺産登録五周年記念写
真展(アステールプラザ)
- 12～16日/同展・記念講演(宮
島町中央公民館)
- 15日/ユネスコ活動奨励賞審査
- 20日/機関紙第53号発行

中山常任理事、国内委員に

文部科学省は、十二月一日付で当協会中山修一常任理事を日本ユネスコ国内委員会委員に任命しました。

同理事は、現在、広島大学大学院国際協力科科長として、アジアからの留学生を受け入れて、国際理解・国際協力等の教鞭を執りながら、アジア諸国の大学をはじめ、教育機関と連携して教育全般の研究とユネスコ教育を推進されています。

なお、民間ユネスコ分野からは、各フロッックの一名が国内委員に選出されています。